

より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第1回

山本博也

(1) 花を敬する

花を愛する人は多いでしょうが、花を敬する人が幾人あるでしょうか。

花が咲いている。ああ美しいなあと思わず足を止める。その時は花の美しさに身も心も奪われています。

しかしただ美しいと見、思うだけでは足りないものであって、可憐な花一輪が持っているすばらしさを、果たして自分が持っているかどうか、言語動作に、心の交流に、こういう純真な美しさがあるか

どうか、こう反省するとき、おのずから花に尊敬が生まれてくるのであります。

(2) すべての人、物、事を敬愛する

一日生涯であります。この今日という一日はまことに尊い一日であります。その一日を生き生かされているこの身もまた尊く、この身をかくあらしめている万人、万物また尊いのであります。こういう情緒から「敬」と「愛」が生まれてくるのであります。

(出居清太郎先生の言葉から)

「花を敬する人が幾人あるでしょうか?」
まったく思いもかけない問いかけでは

ないでしようか。

先生が「花を敬する」とおっしゃるときの「花」には何の限定もありません。すべての花です。どんな花でもです。

どんな花も、与えられた場所で、その花本来の大きさ、形、色で自然に、あるがままに咲いている。それが先生という「純真な美しさ」であり、だから花は、そこに咲いている、その花自体が尊いものであり、敬すべきものだということではないでしようか。

先生は「万人、万物また尊い」とおっしゃっています。ここにいう「万物」の中には、事柄も含まれているでしょう。私たちが日々出会うすべての人・すべての物・すべての事に対して、敬愛の心

をもつて接することができればどんなにすばらしいことでしょう。

敬愛の心を持って接するというのは、何も特別な待遇をするということではないでしょう。そのものを否定したり、無視したりしないで、そのものの存在を肯定し、思いやりをもって、あたたかく接するということだと思います。

敬愛の心を持つことによつて、「困った人だ」「なんだこんな物」「またか、いやだな」といった気持ちを少しでもなくしていくことは、必ず幸せにつながってい



カット 大西 恵

くに違いありません。

(3) まだかい、じゃ一緒に勉強するか

簡単な日常の会話ですが、「勉強しましたか」「していません」という親子の問答ですね。「していません」と子供が答えると、「なぜしないんだ。ダメじゃないか、いつも言っているのに。早く勉強しなさい」と庄(お)しつける親がありますね。「まだかい、じゃひとつ一緒に勉強するか」と勉強を見てあげるなり、自分も勉強するなりして、というのが愛なんです。

(出居清太郎先生の言葉から)

親はよく子供に対して、「しなさい」「なぜししないんだ」と言って叱ったり、命令したりします。ところが子供はなか

なか親の言う通りにはしません。そこで親は、怒って子供にどなり散らし、子供は委縮し、親に不満を持ちます。

これは親にとっても子供にとってもたいへん不幸なことです。

こういう不幸をなくすためには、まず親が、子供を「敬愛」することが大事ではないでしょうか。「愛」は、親には本能的に備わっているでしょうが、「敬」の方は、自覚的に持つ必要があるように思います。逆にいえば、「愛」は意識して持つうとしても持てるものではないが、「敬」は意識して持つことができるということです。

子供に対する「敬」は、すぐれた人格者や大きな業績を挙げた人に対してもつ

ような尊敬ではなく、子供の気持ちを尊重し、思いやりをもって、あたたかく接するということだと思います。

だからといって、何でも子供の好きにさせればいいということではもちろんありません。危険な行為や健康によくないことはしないように導くのが親の務めです。ただその時に、子供に対する「敬」があれば、むやみに声を荒げたり、押しつけたり、おどしたりするのではなく、おだやかに導く、そのための工夫を思いつくのではないでしょうか。

勉強をしない子供に対しては、「一緒に勉強しよう」と声をかけるとか、寝転がってテレビを見るのをやめて本を読むとか。あるいは子供が同じことを何度も聞いてきた時も、「前にも言ったじゃない、

同じことを何度言わすのよ」といった言葉を出さずに、初めての時のようにやさしく教えるのが子供を敬するということではないでしょうか。

いま世の中では、いじめとか、虐待とかが大きな問題となっています。加害者は、自分の尺度で測って、自分より劣位と見た人に対してそういう行為に及ぶのでしよう。その加害者もまたどこかで同じような被害を受けているのでしよう。何かの尺度で優劣を測る前に、人も物も事も、その存在自体を尊いものとして敬愛する気持ちが人々の間にひろがっていくことが大事ではないでしょうか。

発行所 〒170 0011 東京都豊島区池袋本町3 11 1

修養団捧誠会 TEL 03 3971 1493